

【政策③：デジタル技術の実装の促進】

生成A I を活用した業務効率化の推進

<知事直轄組織>

【目的】

業務において生成A I（ChatGPT等）を積極的に活用することで業務効率化や行政サービスの向上を推進

【現状(2023)及び課題】

- ・静岡県独自の規定や業務マニュアル等を踏まえた回答が返ってこないため、業務において効果的に活用できていない

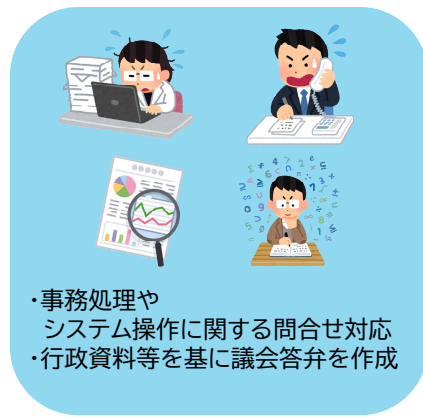
【取組内容(2023)】

- ・県職員向けの利用ガイドラインを策定
- ・生成A I の利用拡大に向けた職員研修を実施
- ・プロンプトレシピ集を作成し利用を促進

【今後の取組予定(2024～2025)】

- ・県独自の規定や業務マニュアル等を利用して文章を生成するRAG機能を導入し、業務への活用に繋げる
- ・職員研修を実施
- ・好事例を共有

○ 現状(2023)



○ 施策実施後(2025)



○ K P I : 生成A I 利用による業務時間の削減  
基準値(2023) : 0時間/年 → 目標値(2025) : 19,600時間/年

○ 年次計画

2022	2023	2024	2025
		モデル所属での事例創出	
			全庁に展開

# 盛土造成行為の適正化の推進 <<暮らし・環境部>>

**【目的】**  
県内に多数ある不適切な盛土等に関する情報の管理にデジタル技術を活用することで、不適切な盛土の現状や是正に向けた情報を把握し、盛土造成行為を適正化に繋げる。

**【現状(2022)及び課題】**  
多数の既存不適切な盛土に関する情報と、新たに発見される不適切な盛土を一元的に効率的な管理をするためには、人員が不足している。

**【取組内容(2023)】**  
既存の不適切盛土や盛り土110番の情報を、許可盛土や他の土地利用規制に係る情報と一元的に管理する「盛土監視システム」を構築・改修

**【今後の取組予定(2024~2025)】**  
盛土規制法の運用開始に向けた改修を行うとともに、不適切な盛土等に関する巡回監視で得た情報を「盛土監視システム」に蓄積する。

○ 現状(2022)



○ 施策実施後(2025)



○ **KPI**：盛土造成行為が適正に行われている箇所の割合  
基準値(2022)： 90.4% → 目標値(2025)： 100%

○ 年次計画

2022	2023	2024	2025
システム構築	システム改修	システム更新	
不適切盛土の監視			

# 小児救急におけるリモート指導医による相談体制の構築 ＜健康福祉部＞

## 【目的】

遠隔で小児のベテラン医師の診断助言を受けられる体制を構築することで、適切な小児医療の提供や、小児二次救急医療機関の医師の負担軽減を推進

## 【現状(2022)及び課題】

- ・小児科医の不足により小児救急医療体制を維持できる病院が不足
- ・地域の小児二次救急医療機関に、当直医では対応困難な症例患者が搬送された場合、ベテラン医師のオンコールにより対応せざるを得ない

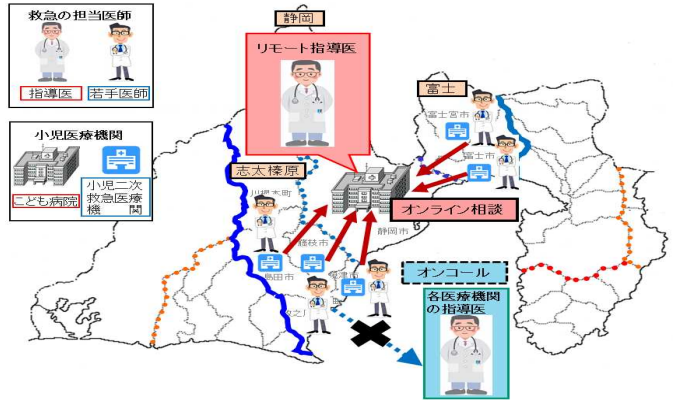
## 【取組内容(2023)】

- ・県立こども病院にリモート指導医を配置
- ・小児二次救急医療機関が、リモート指導医からオンラインで相談を受けるための機器を整備

## 【今後の取組予定(2024～2025)】

- ・リモート指導医による相談や、効果検証を継続
- ・相談事例の共有等、さらなる相談件数の拡大を図る

## ○ 施策実施後(2024)



○ KPI：遠隔支援システム参加病院数  
基準値(2022)：0病院 → 目標値(2024)：6病院

## ○ 年次計画

2022	2023	2024	2025
	機器整備		
		リモート指導医による相談の実施、効果検証	

# 感染症対策のデジタル化

<健康福祉部>

**【目的】**

感染症に関する情報プラットフォームの構築等により、感染症対策業務全般の業務を効率化

**【現状(2022)及び課題】**

- ・保健所等における業務が紙媒体、手作業中心で、時間と労力を要する
- ・迅速に情報提供や注意喚起ができる仕組みが必要

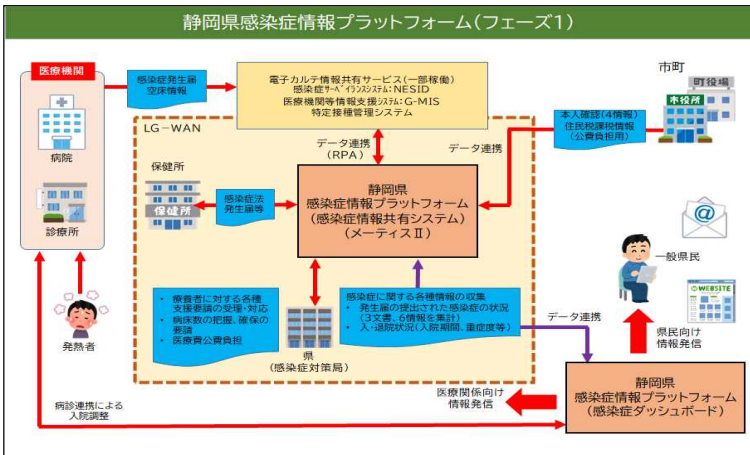
**【取組内容(2023)】**

- ・保健所の感染症対策事務処理の標準化及び効率化を図るシステム（感染症情報共有システム）とダッシュボード機能等を使い、外部へ情報発信するシステム（感染症発生状況見える化ダッシュボード）の仕様作成、発注、構築

**【今後の取組予定(2024～2025)】**

- ・感染症発生状況見える化ダッシュボードを構築し、2024年10月から運用開始する
- ・感染症情報共有システムを構築し、2025年4月から運用開始する

○ 施策実施後(2025)



○ 年次計画

	2022	2023	2024	2025
見える化ダッシュボード		仕様 検討	開発 構築	システム運用
感染症情報共有システム			開発構築	システム運用

# 水産業におけるデジタル技術の活用

<経済産業部>

## 【目的】

デジタル技術の活用により、水産業者の所得向上や業務効率化等を促進する

- ・伊豆地域の主要漁業である定置網漁業において、デジタル技術の活用により生産性向上を図る。
- ・IoT機器等により集積した漁獲情報等を活用することで効率的な操業を実現し、コスト削減に繋げる。

## 【現状及び課題】

- ・減収（漁獲量減少）⇔ 支出増大（資材費等高騰）
- ・操業の効率化によるコスト削減が必要

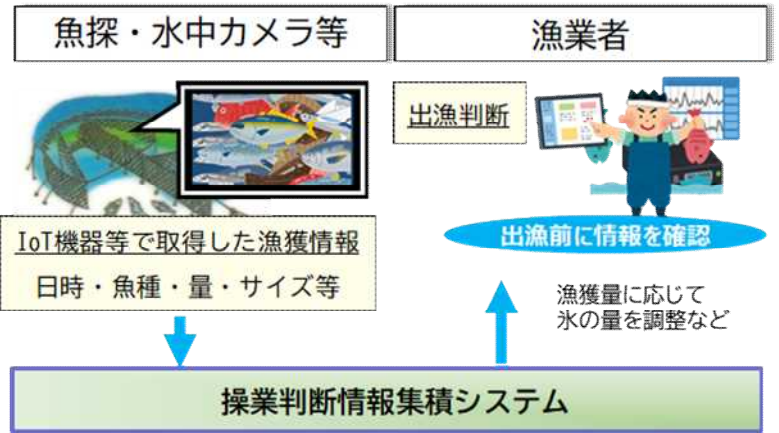
## 【取組内容】

- ・漁獲情報等をアップロードするシステムを整備
- ・漁獲情報を分析して効率的に操業
  - 入網量が少ない→操業を見合わせ
  - 入網量（見込漁獲量）に合わせた量の氷を積載

## 【今後の取組予定】

- ・経費削減効果の分析、利用者満足度等調査
- ・システム改良、他の定置網へのシステム導入

## ○ 施策実施後(2025)



- KPI : 基準値(2023) → 目標値(2025) :
  - システム導入数 : 0 か統 → 5 か統
  - コスト削減率 : 0 % → 10 % (燃油+氷)

## ○ 年次計画

2022	2023	2024	2025
	システム構築・実装	分析・改良	エリア拡大